

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録画像検査の結果を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	転移性軟部腫瘍の臨床的特徴に関する後ろ向き観察研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 整形外科 講師 藤渕剛次
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2027 年 3 月 31 日
対象となる方	2005 年 4 月から 2024 年 3 月までに愛媛大学医学部附属病院を受診された 20 歳以上の方のうち転移性軟部腫瘍と診断された患者さん。
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 年齢、性別、診断名とステージ、各種検査の結果、治療状況、経過中の全身状態・身体活動の状態、最終経過。
研究の概要 (目的・方法)	平均寿命の延伸による高齢者人口の増加や新規治療法の開発による各種がん患者の生命予後の改善により、がん患者数は年々増加しており、現在、日本人の 2 人に 1 人はがんに罹患するとの統計が発表されています。がん患者の増加に伴い転移性病変を有する患者数も増加するものと予想されます。 比較的多く見られるがんの転移部位の一つとして骨が挙げられ、骨・軟部腫瘍外来（整形外科）を受診することが多いですが、その一方、転移性軟部腫瘍は骨転移と比較すると非常に稀であり、未だその臨床的特徴や診断、治療などに関する問題点は十分に解決されているとは言い難いという状況です。 このため本研究では、転移性軟部腫瘍の臨床的特徴や診断、治療などに関する問題点を検討することを目的とします。これにより希少な状態である転移性軟部腫瘍の特徴、病態の解明の一助となり治療成績の向上につながるものと考えられます。 当院の電子カルテデータより、患者背景（年齢、性別、原発腫瘍、転移の部位

	と転移病変数，他臓器への転移の有無），原発巣の確定のため施行した検査，確定に要した期間，原発巣，軟部転移に対する治療の開始日と内容，経過中の Performance status・ADL（全身状態・身体活動の状態），最終的な経過などを調査します。 このデータから，転移性軟部腫瘍の診断に要する期間，診断に必要な検査，軟部転移を起こしやすい原発巣，好発部位，至適な治療法，予後などを明らかにし，転移性軟部腫瘍の診療上の注意点などを検討いたします。
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名，住所，生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は，院内で厳重に保管し外部への提供は行いません。 また，保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は，新たな研究として倫理審査委員会に申請し，承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが，発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院整形外科 藤渕剛次 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5343